

CONTENTS

- 2面 探偵 Minami スクープ
- 3面 校内情報
- 4～7面 新型コロナウイルス特集
- 8～11面 「戦争を語り継ぐ」
- 12面 「龍馬さるく新聞」

長崎南高新聞

発行所 長崎県立長崎南高等学校
新聞部
長崎市上小島4丁目13-1
印刷 株式会社 昭和堂
諫早市長野町1007-2

COVID-19 Nagasaki Minami 2020 コロナと向き合う日々



▲登校時の消毒
新型コロナウイルス感染症対策として3月4日～3月24日は臨時休業となった。3月25日から部活動が再開。このときから登校時などの手指の消毒を徹底。



▲臨時休業の前、午前中に下校する南高生。
4月16日に緊急事態宣言が全国に拡大された。本校でも4月18日から再び部活動が全面中止となった。20日は授業が午前で終了、21日から臨時休業に入った。「接触防止のため、生活の維持に必要な場合(医療機関への通院、生活必需品の買い出し、屋外での運動や散歩等)を除き外出を避け、基本的に自宅で過ごすようにして下さい」と指示された。【4月21日の県内累計感染者数17人】



▲休業期間中の教室
4月21日から臨時休業。4月20日に三菱重工焼造船所に停泊中のクルーズ船の船員の感染が確認された。感染した船員が長崎市内に上陸していたことが臨時休業期間中に判明し、長崎市民に衝撃が走る。



▲分散登校期間中の教室
5月11日から22日は偶数番号と奇数番号の生徒を午前と午後に分けて分散登校。【5月22日の県内感染者累計17人。5月・6月の新規感染者はゼロ】



山本先生は新型コロナウイルスの流行のスピードを抑えることがウイルスの弱毒化につながると語る(山本先生の研究室)

特集COVID-19

長大熱研 山本太郎先生(国際保健学)に聞く 新型コロナウイルス感染拡大 背景にグローバル化

新型コロナウイルスの流行により高校生活が大きく変わった。経済も打撃を受け社会全体が大きく変わり始めている。そこで、私たちは6月30日に「感染症と文明」(岩波新書)の著者として知られる長崎大学熱帯医学研究所教授の山本太郎先生(国際保健学・熱帯感染症学)のもとを訪れ、これからの社会の課題などについて話を伺った。

◆新型コロナウイルスの特色
「新型コロナウイルスの特色は主に2つある。①(自分が感染しても)症状が出る前から、他者への感染が起る。②(他者から感染しても)症状が出ない人がいる。例えばSARSは感染して症状が出てから他者への感染が起るの。水際対策ができる。つまり、症状が出た人の動きを止めれば、感染を止めることができる。しかし、新型コロナウイルスは症状が出ない人も感染力を持っているので感染を止めにくい。とても『頭の悪い』ウイルスだと思える。」

「2〜3万年前、人類は狩猟採集生活を営んでいた。100人くらいの大きな家族のような集団で、広い地域をテリトリーとしていた。集団同士の行動範囲がお互いに離れているので、1つの集団がウイルスに感染して死滅するとウイルスにとっても宿る対象がいなくなるので死滅してしまふ。今は人が密集して暮らしているので感染が広がります。それに加えてグローバル化が進み人間が広範囲で交流するとますます広がります。」「取材日の6月30日現在では大都市圏ではない地域、たとえば石川県では300人の感染者が確認されています。」



▲山本先生の著書『感染症と文明』(岩波新書)

◆長崎県300人あり得る
「偶然と必然の両方どが考えられる。パリ・ニューヨーク・東京など人口が密集しグローバル化の最先端の場所は感染が急速に広がります。大都市圏と比べて、長崎は人の往来も少ないし、感染者が少ないのは必然ともいえる。石川県の300人も大都市と比べれば少ない方。ただし、長崎が大都市圏以外の地域の中に見ると感染者が少なかつたのは偶然だと思ふ。大分市など長崎くらいの都市でもクラスターが発生している。今までにクラスターが発生してもおかしくはなかったし、石川県の状況と

①一度に大量の患者が出ることで医療機関の対応が困難になり医療崩壊を招く恐れがあり、それを防ぐことになるから。②流行のスピードが遅くなると毒性の弱いウイルスは生き残るが、強毒性のウイルスは他人に感染できなくなると、感染した人が亡くなってしまうと同時にウイルスも死滅し、強毒性のウイルスが減っていくため(逆に言えば密の状態では強毒性ウイルスが生き残り続ける確率が高まる)。」

この記事の一部(県内感染者の増加の可能性について述べた部分など)は7月22日付「みなみブラス」に掲載している。

コロナ対策 油断しないで

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言は5月21日に北海道、埼玉、千葉、東京、神奈川県を除く47府県で解除。5月25日には全国的に解除された。緊急事態宣言解除後も県をまたぐ移動等の自粛要請が継続されていたが、6月19日に全面解除された。
4月18日以来、長崎県内では新規感染者ゼロが続いたが、取材直後の7月3日に本県18人目の感染者が確認された。その後、長崎市内で本県最初のクラスターが発生。7月21日の時点で長崎県内の感染者数はクルーズ船を除き47人に達していた。その後、8月22日には累計200人を越え10月22日の段階で242人に達している。

山本先生が取材時に「長崎県内でクラスターが発生してもおかしくなかった。長崎の状況もこれからのことになってしまったと感じた。これからは新型コロナウイルスに対して危機感を抱き、マスクの着用、手洗い、うがい、3密を避けるなどの感染症対策を徹底していきたい。」(西宮)

崎陽の丘

新型コロナウイルスは新聞部の活動にも大きな影響を与えた。富山県の高岡第一高校新聞部の提案で全国各地の新聞部がアンケート形式で活動の状況を報告し合った。その一部を紹介する。▼「特に校外での対面での取材が困難になった」(群馬県立富岡高等学校)▼「3月発行予定だった号が中止になり、それ以後6月末)まで全く活動できていない」(東京都・吉祥女子高等学校)▼「県高校総体と体育大会がなくなり、例年紙面を占めていた記事が載せられなくなった」(富山県・高岡第一高等学校)▼休校によって、3年生の最後の大会がなくなったり、新入生と3年生が一緒に部活をする時間が減った。3年生のこれまでの活躍を伝える速報新聞を製作した(滋賀県立虎姫高等学校)▼こうした報告を通じて、思うように活動できずに困惑したようすが見て取れる。一方で次のような学校もあった。▼「休校中にはすべてオンラインで企画会議、取材、編集を行う『オンライン新聞』を約3ヶ月の間に約15号作り配信した(東京都・錦城高校)▼ある商業紙の記者さんにも話を伺うと、取材活動にもコロナの影響が及んでいるという。例えば被爆者の方々が高齢者で、感染すると重症化リスクが高いので電話取材に切り替えた。オンラインの取材も増えたが、対面に比べて声の調子や表情が分かりづらく細かなニュアンスが伝わりにくくて困っているという。▼コロナ禍という状況は当分続く。本校新聞部もコロナ禍に対応した新たな活動方法を模索していきたい。(香川)

吹奏楽部 新型コロナを乗り越えて 定演振替公演ついに実現

入念なコロナ対策実施す

長崎南高等学校吹奏楽部 第15回定期演奏会の振替公演が入念な感染予防策を講じたうえで7月26日に長崎プリックホールで開催された。ゲストには関西フィルハーモニー管弦楽団首席トランペット奏者の白水大介さん（長崎市出身）を招いた。

もともと、定期演奏会は3月20日開催予定だったが、新型コロナウィルスの影響で一旦延期となり、今回はその振替公演として新型コロナウィルス感染対策をしながら演奏を披露した。本校吹奏楽部が大規模なホールで演奏するのは昨年11月にアルカスSASE BOで開催された「しおかぜ祭」以来となる。

3月以来、吹奏楽部には新型コロナウィルスの影響で大きな苦難が次々と襲いかかった。定期演奏会の延期、臨時休業、吹奏楽コンクール中止、全国高校総合文化祭のWEB開催への変更などである。57回生は在学中、最後の定期演奏会を経験しないまま卒業することになった。

臨時休業期間中、部員は楽器を持ち帰り、家庭で練習に取り組んだ。この間、



巧みな演出で『グレイテストショーマン』を熱演



感染症対策で1階席の前方半分は空席とし、後方と2・3階席は1席おきに使用することにした。

辻先生は保護者のスマホを経由してリモートで指導を行った。生活リズムが崩れないように朝から毎日欠かさずメッセージを送り、練習を録画した動画を送ってくれた部員に丁寧にアドバイスをを行った。

「二人ひとりに、音を聞いてアドバイスするのは大変だったが、成果は上がった」と顧問の辻理香先生は振り返る。

吹奏楽部は振替公演のために長崎プリックホールを押さえるとともに、稲佐山野外ステージも押さえた。振替公演に先だって7月5日と19日に野外コンサートを開催することができた。

振替公演は入念な感染対策を行った。例えば、演奏時間を短縮するために、4部構成だった3月の定期演奏会の内容を見直し、2



消毒の徹底。新聞部も手伝う

部構成に再編成した。声を出したりしてはいけないことから、劇の台詞の部分などはすべて録音で対応した。観客席は、ステージと観客の距離をとるため1階席の前方半分を空け、後方半分からは一席おきに着席してもらったようにした。

「公演から2週間たってもコロナ感染者が確認されなかったのが安心した。感染者が確認されなかったことで、この定期演奏会は成功したと思う」と辻先生は振り返った。

吹奏楽部部長の寺下日和さん（3の5）は振替公演について次のように語った。

「コロナの影響で予定したことが思いどおりに実施できなかったが、先生からアドバイスをいただいたり部員全員で知恵を出し合ったり、いろいろな制約がある中でもお客さんに楽しんでいただけたら、僕らとしては嬉しい」と語った。

NHK放送コンテスト長崎県大会の代替大会 長崎県高校放送コンテスト 4部門で優秀賞



4部門での優秀賞受賞を喜ぶ放送部員

令和2年度長崎県高校放送コンテストが7月19日に発表された。このコンテストは新型コロナウィルス拡大に伴って中止されたNHK全国放送コンテスト長崎県予選の代替大会として開催された。感染拡大防止のため、アナウンス部門、朗読部門は録音審査になった。

従来のコンテストであれば優秀賞以上は全国大会に進むことができたが今回は県大会で完結した。結果は次のとおり

優秀賞
 テレビドラマ部門 「for sounds」(2の4)
 田中きりり(3の6)
 山下菜々(3の5)
 小川碧(2の5)
 大久保愛美(2の6)
 石脇美海(1の2)
 ラジオドキュメント部門 「日本で見つけたモノ」(2の4)
 本田泰輝(3の6)
 田中妃南美(3の6)
 片山佳純(2の5)
 牛島颯希(1の6)
 洲上東穂(1の1)
 テレビドキュメント部門 「this is me」(優秀賞)
 池田海舟(2の4)

中島駿一郎(2の4)
 瀧田楓菜(2の5)
 本多趣有(1の6)
 テレビドラマ部門の作品「for sounds」では、主人公の高校生、袖(つむぎ)は難題になり、ピアノをやめようと思ったが、やがてベーターウェンと境遇が近いことに気づき、ベーターウェンの「神がもし、世界でもっとも不幸な人生を私に用意していたとしても、私は運命に立ち向かう」という名言を知り、ピアノを続けようとした。

ラジオドキュメント部門の「日本で見つけたモノ」はALTのジョエル先生が日本に来て、弓道と出会い学んだことを伝える作品。テレビドキュメント部門の「this is me」は、亡き父の影響で一年中半袖を着続ける放送部2年の中島駿一郎君を扱った作品。

ラジオドキュメント部門で優秀賞を受賞した本田泰輝君は「コロナのために題材選びで苦労し、やっとジョエル先生と弓道という題材に行き着いた。優秀賞は最初から取るつもりでいたが、実際に受賞できてうれしかった。一緒に制作に携わったメンバーには感謝しかない。本来なら全国大会に行ける賞だった。全国に行きたかった」と語った。

新聞部では戦後75年に因る特集を企画していたが、新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止のために当初の計画から大きな変更を余儀なくされた。「戦争を語り継ぐ」という企画では、主として戦時中に10代だった方々への聞き取りを予定していたが、当時10代だった方々は現在80代後半から90代である。高齢者は感染すると重症化のリスクが高いため、聞き取りを一旦見送った。

わたしたち新聞部員は対面の取材以外の方法を模索して行く中で、長崎出身の作家・林京子さんが自らの被爆体験をもとに書いた小説『空き缶』の朗読会を、放送部と共同で企画することになった。この企画は今回の戦後75年の特集の発端となった。さらに、朗読会の準備を進める中で、林

部説

十代の学徒動員を思う

京子さんの学徒動員の体験記「やすらかに今は眠り給え」と出会い、この作品をきっかけに私たち新聞部員は戦時中の学徒動員（学徒動員）の一端を知ることになった。

学徒動員とは戦時中の労働力不足を補うために中等学校以上の学徒（現在の中学生や高校生などに相当する生徒）が軍需工場に強制的に動員する制度であり、1945年3月には、政府によって中等学校以上の学

今年、新型コロナウィルスの影響で、学校が臨時休業となり、部活動も制限された。こうした状況を体験したことで、戦時中の10代の思いを少しだけ身近なものとして感じることができた。

私たちは、戦時中に10代だった方々から直接話を聞ける最後の10代である。新型コロナウィルスの感染拡大が落ち着いたら、学徒動員など戦時下の学生生活について話を聞いてみたいし、南高生の皆さんも、機会があればぜひ話を聞いてほしいと思う。

SトレⅢ29班 PCカンファレンス学生論文賞受賞

田中海舟君(3の6)をチームリーダーとするSS HトレⅢ29班の研究論文「児童虐待のない未来のために高校生意識調査の分析に基づいた啓発活動とその検証」がCIEC(コンピュータ利用教育学会)の「2020PCカンファレンス学生論文賞」を受賞した。

SトレⅢ29班の班員は次のとおり。

田中海舟(3の6)
 山崎一輝(3の5)

川添 綾(3の6)
 山口竜介(3の5)
 堀川遥夢(3の2)

この賞は、「2020PCカンファレンス」に応募した生徒・学生・大学院生を筆頭著者とする論文の中から研究の新規性、根拠・データの確かさ、応用可能性、論文の構成の4項目により審査され、1点が選ばれたものである。かつて東京大学、東北大学、名古屋大学などの学生が受賞したことがある。8月19日にZoom上で開催された

2020PCカンファレンス内の総会で表彰式が行われ、表彰状と副賞の授与が行われた。チームリーダーの田中海舟君がお礼の言葉を述べた後、分科会で口頭発表を行った。

次のように語った。

「児童虐待防止の啓発活動を行う前と後の2回にわたって、児童虐待に関する意識調査を行った。調査結果をどのように分析するかで苦労したが、最終的に統計学を用いた手法で分析を行い、啓発活動の有効性を立証できた。統計学の手法を用いて数値を分析したことが今回の受賞につながった。」

SトレⅢ29班の指導に当たった岡田寛子先生は「文系的なテーマでも、統計学に基づいた分析の手法を用いて科学的な研究ができることを示した。この研究が後輩の研究につながることを願う」と語った。

全国高校新聞紙面審査 優良賞受賞

全国高等学校総合文化祭新聞部門の一環として実施された全国高校新聞紙面審査の結果発表が「こちろ総文(WEB総文)」で行われ、本校新聞部は西陵高校・長崎工業高校とともに優良賞を受賞した。本校の優良賞受賞は7年連続となる。

特集COVID-19

長大熱研山本太郎先生に聞く

コロナとの「戦い」から「共生」へ

「コロナ後の社会」 私たちが決めるべき課題

▼1面から続く
◆コロナの終息は

「みなさんが大人になる頃には新型コロナウイルスは終息していると思うが、来年はまだ影響が残ると思う。自分の息子も新聞部のみなさんと同じ高校2年生で野球部に入っている。息子には鳥来年も全国大会ができるかどうかは半々くらい」と言っている。それも想定にいれながらも今は練習するしかないことを、考えていてもしかたがない。コントロールできることを頑張るしかない。ラグビー日本代表だった福岡野村さんが言っているように、コロナは自



高校生が自分の頭で考えることの大切さを訴える山本先生
山本先生のお子さんと同じ高校2年生

分てコントロールできない。自分がコントロールできるのは、自分がその状況下で何を優先するかということ。

◆問題はワクチンの配分
「新型コロナウイルスは変異しやすいのでワクチンは作りにくい。それでもワクチンは1年か2年でできると思う。問題は生産量に限りがあるということであり、それをどう分配するか」といふこと。

◆「コロナとの共生」
「感染を制御するために直接的なコミュニケーションを控える必要もある。好きとか嫌いとかは別にして情報技術（IT）を駆使するしかない。今までは生徒が一つの場所に集まりみんなが同じ事をやっていたが、オンラインの授業はやり方次第では教育の可能性を広げることが可能になる。従来教室で行っていたことと同じ事をオンラインで行ってやっていると効果が上がらなければ、それは従来の授業の劣化版にしか

ならない。オンラインはどこからでもアクセスできるし、どこからでも教えることができるということが新たな可能性を生むことになる。教育の獲得目標は何かという根源的なところから考えていくと、オンラインで世界中つながることで新たな可能性が生まれてくる。しかし、一方でオンラインが使えるかどうかで格差も出るといことは注視しなくてはならない。

◆「新型コロナウイルスとの戦い」といふ言葉をよく聞かされる山本先生の「戦い」となると「勝つまで頑張らなければならない」といふことになり、「戦い」は「守る」という観点を持つことが必要。そうすればもっと穏やかな気持ちでいることができるのではなか。少し長い時間の単位で見ると、新型コロナウイルスと折り合いをつけながら共存していかなくてはならない。短い時間単位では、医療崩壊を防ぎつつ、失業した人を救う対策が必要。

◆「感染症の流行と社会の変化」
「そもそも人間がいろいろな環境で生きていくのは、いろいろな免疫をたくさん持っているからだ。15世紀末に「コロナ」が新大陸に行きつたという話をきくについで、スペインが植民地化した。その際に新大陸の先住民にヨーロッパで流行した天然痘や麻疹など感染症を持ち込み、圧倒的多数の人が亡くなった。それが植民地化を促す要因の一つとなった。先住民にはヨーロッパの住民とは別の感染症のプロファイルがあり、それに対する免疫を持っていないが、ヨーロッパで流行した感染症に対する免疫がなかったからだ。

◆「感染症で社会が大きく変わった例として、例えば中世ヨーロッパのペスト大流行が有名。百年戦争と時期が重なる。14世紀を中心として50年くらい続いた。ヨーロッパの3分の1が亡くなった。諸侯の力が弱まり、国家の力が強まった。それが封建制から近代への移行を促した。

◆「私たちの未来を作る」
「情報化が急速に進むことは間違いない。そのような中でどのような社会を作りたいか、まさに君たちが決めるべき課題。情報技術が全面的に出てくる社会になることは間違いないが、それはあくまで技術であり、それをどう使っていくという社会を作るかは君たちの問題。情報技術はみんなが仲良く協調していくために使うべきであり、監視国家を作るために使うべきではない」と「サピエンス全史」の著者、イスラエルのユヴァル・ハラリという学者は言っている。情報技術はいろいろな使われ方をしている。ポテンシャルを持つ。それを使おうという社会を作るかをみんなで考えていかなくてはならない」と

特集COVID-19

ウイルス検査4日間で600人 長大熱研 LAMP法活用



三菱重工長崎造船所香焼工場に停泊中のコスタ・アトランチカ。香焼を含めて長崎市の南部地区は南高生の居住地域

三菱重工長崎造船所香焼工場に停泊中のクルーズ船コスタ・アトランチカの乗組員に対する新型コロナウイルスの検査では、長崎大などが開発した迅速検査法が導入され、長崎大学熱帯医学研究所がわずか4日間で600人超の検体の検査をやり終えた。

PCR検査は検体からウイルス遺伝子を抽出する前処理を含めて約5～6時間かかるが、長崎大学がキヤノンメディカルシステムズと共同開発した蛍光LAMP検査法は、前処理も含め40分以内で判定できる。

県内の1日の検査能力（最大140人）では限界があるので、全乗員623人の検査を急いだ長崎県が長崎大学に協力を依頼した。依頼を受けた長崎大学熱帯医学研究所は5月21～24日の4日間で、1日あたり最大280人以上を検査した。

◆「私たちが未来を作る」
「情報化が急速に進むことは間違いない。そのような中でどのような社会を作りたいか、まさに君たちが決めるべき課題。情報技術が全面的に出てくる社会になることは間違いないが、それはあくまで技術であり、それをどう使っていくという社会を作るかは君たちの問題。情報技術はみんなが仲良く協調していくために使うべきであり、監視国家を作るために使うべきではない」と「サピエンス全史」の著者、イスラエルのユヴァル・ハラリという学者は言っている。情報技術はいろいろな使われ方をしている。ポテンシャルを持つ。それを使おうという社会を作るかをみんなで考えていかなくてはならない」と

◆「感染症で社会が大きく変わった例として、例えば中世ヨーロッパのペスト大流行が有名。百年戦争と時期が重なる。14世紀を中心として50年くらい続いた。ヨーロッパの3分の1が亡くなった。諸侯の力が弱まり、国家の力が強まった。それが封建制から近代への移行を促した。

◆「私たちの未来を作る」
「情報化が急速に進むことは間違いない。そのような中でどのような社会を作りたいか、まさに君たちが決めるべき課題。情報技術が全面的に出てくる社会になることは間違いないが、それはあくまで技術であり、それをどう使っていくという社会を作るかは君たちの問題。情報技術はみんなが仲良く協調していくために使うべきであり、監視国家を作るために使うべきではない」と「サピエンス全史」の著者、イスラエルのユヴァル・ハラリという学者は言っている。情報技術はいろいろな使われ方をしている。ポテンシャルを持つ。それを使おうという社会を作るかをみんなで考えていかなくてはならない」と

特集COVID-19

長大熱研オンラインセミナー 「熱研夏塾」でコロナ学ぼう



高校生に向けてオンラインで話をする長崎大学熱帯医学研究所の吉川先生。吉川先生はコスタ・アトランチカの乗組員のウイルス検査を担当した。（長崎大学熱帯医学研究所のHPより転載）

長崎大学熱帯医学研究所主催の「熱研夏塾」が7月19日、オンラインで開催され、本校から新聞部のコロナ取材班（大江）を含む6人が参加した。テーマは、「人類とウイルスの攻防」。

講師は、長崎大学感染症共同研究拠点の吉川祐助助教。吉川先生は、従来のPCR法よりも検査時間を短縮できるLAMP法を使っていたCOVID-19（新型コロナウイルス）診断キットを開発した新興感染症学分野の安田二朗教授の研究チームに所属している。このLAMP法は長崎港で発生した大型客船コスタ・アトランチカ号での集団感染の診断でも活躍した。PCR法とLAMP法の違いは、PCR法はPCR法とLAMP法の

どちらの方法でも、唾液や鼻粘膜ぬぐい液（スワブ）といった検体からウイルス遺伝子を抽出することができ、検出するメカニズムが2つの方法では異なる。長崎県ではすでにLAMP法の検査も多く行われている。PCR法とLAMP法の検出する機械が大きく

◆「新型コロナウイルスの研究」
抗ウイルス薬についても我々の研究室や他の研究室で研究が進んでいる。ただ新しいゼロから薬を作るのはとても難しいので、すでに他のウイルスや病気で使われている薬が新型コロナウイルスSARSなどにも効くか検証している。

◆「密を避ける」といふのが一番ではないでしょうか。効果も明らかで、その後ハムスターやマウスなどの動物を使って、生体で有効かどうかという点を検証していることを考えているという。コロナウイルスを抗ウイルス薬で治療できるかはやってみたいとわからないが、コロナウイルスはインフルエンザほどの変異

◆「私たちが未来を作る」
「情報化が急速に進むことは間違いない。そのような中でどのような社会を作りたいか、まさに君たちが決めるべき課題。情報技術が全面的に出てくる社会になることは間違いないが、それはあくまで技術であり、それをどう使っていくという社会を作るかは君たちの問題。情報技術はみんなが仲良く協調していくために使うべきであり、監視国家を作るために使うべきではない」と「サピエンス全史」の著者、イスラエルのユヴァル・ハラリという学者は言っている。情報技術はいろいろな使われ方をしている。ポテンシャルを持つ。それを使おうという社会を作るかをみんなで考えていかなくてはならない」と

◆「感染症で社会が大きく変わった例として、例えば中世ヨーロッパのペスト大流行が有名。百年戦争と時期が重なる。14世紀を中心として50年くらい続いた。ヨーロッパの3分の1が亡くなった。諸侯の力が弱まり、国家の力が強まった。それが封建制から近代への移行を促した。

◆「私たちの未来を作る」
「情報化が急速に進むことは間違いない。そのような中でどのような社会を作りたいか、まさに君たちが決めるべき課題。情報技術が全面的に出てくる社会になることは間違いないが、それはあくまで技術であり、それをどう使っていくという社会を作るかは君たちの問題。情報技術はみんなが仲良く協調していくために使うべきであり、監視国家を作るために使うべきではない」と「サピエンス全史」の著者、イスラエルのユヴァル・ハラリという学者は言っている。情報技術はいろいろな使われ方をしている。ポテンシャルを持つ。それを使おうという社会を作るかをみんなで考えていかなくてはならない」と

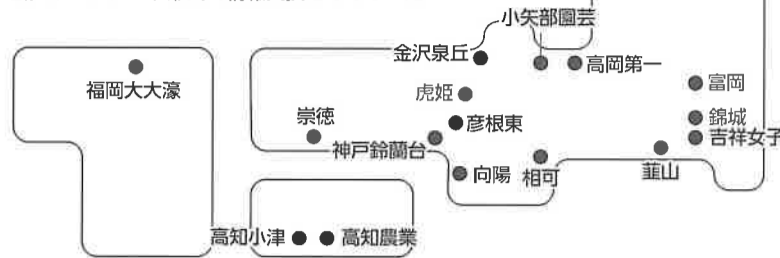


吉川先生の話をする本校の生徒たち。「熱研夏塾」は本校生徒とともに、長崎東高や長崎西高の生徒が参加した。

取材を終えて
◆「私たちが未来を作る」
「情報化が急速に進むことは間違いない。そのような中でどのような社会を作りたいか、まさに君たちが決めるべき課題。情報技術が全面的に出てくる社会になることは間違いないが、それはあくまで技術であり、それをどう使っていくという社会を作るかは君たちの問題。情報技術はみんなが仲良く協調していくために使うべきであり、監視国家を作るために使うべきではない」と「サピエンス全史」の著者、イスラエルのユヴァル・ハラリという学者は言っている。情報技術はいろいろな使われ方をしている。ポテンシャルを持つ。それを使おうという社会を作るかをみんなで考えていかなくてはならない」と

SHINBUNBU コロナレポート 全国北から南から

新型コロナウイルスが高校生活にどのような影響を与えたかについて全国20校の新聞部(新聞委員会)がアンケート形式で情報交換をおこなった



北海道札幌市 札幌啓成高等学校
兼松恵斗さん(3年)

①4月13日②6月1日
③6月15日④4月当初に予定通り実施し、休校まで授業をした。
⑤有り。3年生の一部の数学の授業でZoomとYouTubeを使った授業が行われた。
⑥1年生との対面式と部活動紹介が中止された。Classiを使った課題の中止、9月までの学校行事の自粛。
⑦水飲み場、購買前などソーシャルディスタンスの徹底▼昼食中の向かい合った食事の禁止▼授業中のペーパーなどの制限や禁止。換気の徹底、全クラスに換気のための扇風機を設置▼5分短縮の7時間授業、1年生宿泊研修と7月の学校祭の中止、9月までの学校行事の自粛。
⑧札幌は全国1位の感染率。札幌市内への移動制限などが行われた。緊急事態宣言解除後、老人の屋外活動によるクラスター発生(6月末)
⑨北海道1267人
↓2612人

宮城県大崎市 古川学園高等学校
富田凌馬さん(2年) 森 啓輔さん(2年) 佐藤 泉先生

①3月2日
②5月25日
③6月1日
④始業式・入学式だけ行い授業をしないまま休校あり。
⑤有り。
⑥Classi-classroomを用いた配信授業を各自家庭で視聴する形式(一方) 学科コースの状況により対応は異なる
⑦課題の送付とアプリ配信の両方を実施。
⑧朝の検温▼消毒液・石鹸多数設置▼食堂の販売が予約制になった▼授業中は窓をすべて開ける▼マスク着用▼多人数での集会自粛▼部活の時間規制(1日2時間から段階的に増加・個人ごと健康観察カードの記入)
▼学校行事の中止、内容変更▼時間数を増やすため短縮(45分)での授業実施▼食堂座席制限(対面禁止)
⑨宮城県内では94人のうち死亡者が1名、93人が回復、大崎市では3月30日に医師が1名感染(6月30日現在)
⑩宮城県95人↓544人

東京都小平市 錦城高等学校
山崎琉花さん(2年)

①4月8日
②6月1日
③6月23日
④入学式のみ4月に行い、2・3年生の始業式は6月に実施
⑤リアルタイムのオンライン授業はなかったが、生徒の自習のサポートをするような先生自作の解説動画の配信は行われた。生徒は任意で自由時間に視聴し、休校期間の学習の補助として用いた。
⑥4月・5月に予定されていた行事が中止になったこと。多くの部活の大会・定演がなくなったこと。
⑦感染予防のための様々な対策が成されていた。例えば毎朝顔認証体温測定機というものを置いて昇降口で体温を測定したり、設置されているインフルエンザの消毒液の自動噴霧機が設置されていたり、冷温水機の使用が禁止されたり、校内の様々なところにソーシャルディスタンスを守るための工夫(エレベーターの定員が4人になり、床にテープが貼られているためそれに従わなければならないなど)がされていたりします。
⑧東京都は日本で最も感染者が多い地域でもあり、常に一歩も気が抜けない状況です。緊急事態宣言が解消された今でも、毎日感染者数は増えたり減ったりの繰り返しです(6月末)。
⑨東京都6292人
↓29335人

東京都武蔵野市 吉祥女子高等学校
関 誌乃先生

①4月1日
②6月4日
③6月15日
④入学式6月3日に実施。始業式は対面で行わず、YouTubeで配信。
⑤有り
⑥Google Classroomで毎日朝礼を行なって出席を取り、授業は学年毎に時間割を作りYouTubeで配信。
本校では、2月末に休校に入ってから6月までまったく生徒の登校はありませんでした。6月3日に入学式で新入生と保護者のみが登校、その他の学年は6月13日まで分散登校でLHRを行い、登校できなかった期間には、4月13日から遠隔授業の配信を行いました。
⑦始業時間が遅くなり、部活は始業前の1時間しかないため、活動内容の制限が増えた。
⑨東京都6292人
↓29335人

①今年度の休校開始日 ②分散登校開始日
③通常授業の開始日 ④入学式・始業式の実施
⑤オンライン授業開始の有・無とその内容
⑥休校中に学校で起きた特徴的なことや、休校で発生した問題点など
⑦学校再開後、学校で以前と比べて変化した点
⑧6月末の段階での地域の感染状況
⑨7月1日時点での感染者数↓10月22日時点での感染者数(南高新聞部による追加)
⑩7月以降の動向(高岡第一・金沢泉丘・宗徳)

岩手県陸前高田市 高田高等学校
村上夏真さん(3年) 山口飛羽さん(3年) 千葉由美子先生

①4月17日
②無し③5月7日
④4月当初に予定通り実施し、休校まで授業をした(無し)
⑤海洋システム科の実習(小型船舶実習・食品など)の時間が不足している。
⑥行事の中止(応援歌練習、PTA総会、1学年水上山登山)▼始業式は各教室で放送を聴く形で実施▼県外からの講師を招いた行事の中止・変更
⑩岩手県0人↓26人

岩手県盛岡市 岩手女子高等学校
大井紗菜さん(3年) 細矢唯奈さん(3年) 小笠原 雅先生

①4月25日
②分散登校はしていない
③5月8日
④4月当初に予定通り実施し、休校まで授業をした(無し)
⑤無し
⑥特に無し
⑦時間差登校の実施(登校時間を通常より1時間遅らせる)▼学校行事の中止▼全校での集会の禁止(学年での集会は実施)▼昼食時は座席の移動、私語は禁止▼部活動の時間制限(平日2時間、休日3時間)
⑧岩手県は感染者が出ていない唯一の都道府県となっているが、県民としては「自分が1人目の感染者にならない」という意識が強く、徹底して感染対策をしている人の割合が多いように感じる。一方で、感染者がいないことから、夏から秋にかけて、学校行事や大会などを予定通り実施しようという動きも増えてきている状況である(6月末)。
⑨岩手県0人↓26人

群馬県富岡市 富岡高等学校
岡田聡史先生

①4月8日②6月1日
③6月24日
④始業式・入学式(オリエンテーションなどを含む)だけ行い授業をしないまま休校(無し)
⑤臨時休業中は課題が出されたが、対面での授業がないため、質問をするなどが難しかった(全生徒にG Suiteベースのメールアカウントが発行されたが、メールの返信にタイムラグがあり、素早いレスポンスが難しかったこと、メールの扱いそのものに慣れていない人もいたため、メールのやりとり自体に時間がかかるケースが見られた)。
⑥1学期の延長(7月末まで)▼行事の見直し(球技大会と体育祭の統合、芸術鑑賞教室の中止、土曜課外・模試の日程変更など)▼掃除の際の共用部分の消毒作業が加わった。
▼自習室の利用の仕方が今までは、1つのテーブルに2人がけだったが、密を防ぐため、1テーブル1人までとなった。6月26日現在で、県内の検査陽性者は152人。学校が再開された6月以降の検査陽性者は3人(6月末)。
⑨群馬県153人
↓806人

静岡県伊豆の国市 菲山高高等学校
鈴木翔馬さん(3年) 加藤大智さん(2年) 上杉剛嗣先生

①4月14日
②5月18日
③5月25日
④4月当初に予定通り実施し、休校まで授業をした。
⑤有り。数学や理科を中心とした授業。
⑥YouTube 動画中心。「ロイロノート」の課題提出
⑦クラッシュの不具合
⑧学校行事の中止(遠足など)▼文化祭は文化部発表会として1ヶ月遅れで実施▼集会の中止▼進路室や図書館、自習室、食堂に衝立設置▼各教室にアップルTV設置▼各教室に冷房を効率的に使うための扇風機2機ずつ設置
⑨神奈川と愛知に挟まれていたが、さほど感染者は出なかった。首都圏からの県境越えが多かった(6月末)。
⑩静岡県82人
↓587人

三重県多気町 相可高等学校
山岡三咲さん(2年) 柴田彩也加さん(2年)

①4月15日②5月25日
③6月1日
④4月当初に予定通り実施。休校まで授業をした。
⑤有り。全学年・全クラスで実施。1日につき20分×2コマ
⑥1学期中間考査の中止。クラブ活動の全面休止。測量士の国家試験の延期
⑦夏休みの短縮(8月1日〜8月24日)。学校行事の中止(体育祭など)、換気の徹底(冷房中でも換気をする)。
⑧三重県は6月19日に55日ぶりに感染者が出た。学校のある多気郡内から感染者が出たことがある(6月末)。
⑨三重県46人
↓511人

富山県高岡市 高岡第一高等学校
石田夢聖帆さん(2年) 中木麗未さん(2年) 長丸和生先生

①4月14日 ②5月19日
③6月1日
④始業式・入学式だけ有り。3年生の特別進学コースなど、一部クラスで実施した。一日4時間で実施した。一日4時間。他のクラスも、第2波に備え、オンライン授業の準備をした。
⑤クラッシュによる課題の配信。どの科目も課題が多かった
⑥富山県は3月30日に感染者が出て以降2000人を越える感染者が出たが、その8割以上が富山市だった。学校のある高岡市などの県西部では感染者が出なかった。そのため、富山市在住の人と高岡市在住の人の間には意識の違いが大きくあったように感じる(6月末)。
⑨富山県227人
↓422人

富山県高岡市 高岡第一高等学校
石田夢聖帆さん(2年) 中木麗未さん(2年) 長丸和生先生

①4月14日 ②5月19日
③6月1日
④始業式・入学式だけ有り。3年生の特別進学コースなど、一部クラスで実施した。一日4時間で実施した。一日4時間。他のクラスも、第2波に備え、オンライン授業の準備をした。
⑤クラッシュによる課題の配信。どの科目も課題が多かった
⑥富山県は3月30日に感染者が出て以降2000人を越える感染者が出たが、その8割以上が富山市だった。学校のある高岡市などの県西部では感染者が出なかった。そのため、富山市在住の人と高岡市在住の人の間には意識の違いが大きくあったように感じる(6月末)。
⑨富山県227人
↓422人

富山県高岡市 高岡第一高等学校
石田夢聖帆さん(2年) 中木麗未さん(2年) 長丸和生先生

①4月14日 ②5月19日
③6月1日
④始業式・入学式だけ有り。3年生の特別進学コースなど、一部クラスで実施した。一日4時間で実施した。一日4時間。他のクラスも、第2波に備え、オンライン授業の準備をした。
⑤クラッシュによる課題の配信。どの科目も課題が多かった
⑥富山県は3月30日に感染者が出て以降2000人を越える感染者が出たが、その8割以上が富山市だった。学校のある高岡市などの県西部では感染者が出なかった。そのため、富山市在住の人と高岡市在住の人の間には意識の違いが大きくあったように感じる(6月末)。
⑨富山県227人
↓422人

富山県高岡市 高岡第一高等学校
石田夢聖帆さん(2年) 中木麗未さん(2年) 長丸和生先生

①4月14日 ②5月19日
③6月1日
④始業式・入学式だけ有り。3年生の特別進学コースなど、一部クラスで実施した。一日4時間で実施した。一日4時間。他のクラスも、第2波に備え、オンライン授業の準備をした。
⑤クラッシュによる課題の配信。どの科目も課題が多かった
⑥富山県は3月30日に感染者が出て以降2000人を越える感染者が出たが、その8割以上が富山市だった。学校のある高岡市などの県西部では感染者が出なかった。そのため、富山市在住の人と高岡市在住の人の間には意識の違いが大きくあったように感じる(6月末)。
⑨富山県227人
↓422人

石川県金沢市
金沢泉丘高等学校

⑤有り。Google class roomを用いて、オンライン授業を実施。私はYouTubeに授業をアップしたが、Zoomを用いて双方向授業を行った先生もいた。

⑥先生方はみなオンライン授業に尽力されていた。私がYouTubeになったことが話題になった。

⑦皆マスクをつけている。行事がごとごと中止(遠足・陸上競技大会・総体総文)▼土曜補習の増加、平日補習の増加、夏休みの減少▼窓を開けて、クーラーを運転

⑧6月25日現在で感染者はちよつと5000名。能登はゼロだが、加賀地区は金沢市129名・かほく市75名・白山市28名・野々市市16名・小松市12名・津幡町12名と、かなり広範囲の感染者が出ています。クラスターの発生が大きく、かほく市のF病院だけで56名にも及び、経路不明の感染者はさほど多くない。

⑨石川県3000人
↓795人

⑩夏休み休日を除けば4日間短縮された。その後、感染再拡大で8月31日、9月1〜2日の3日間休業措置が執られた。本校の創立記念祭(一般の文化祭にあたる)が短縮された。コロナ対策は大変入りなもとなつた。



滋賀県長浜市
虎姫高等学校

吉川晴瑠さん(2年)
鈴木真由美先生

①4月13日
②5月18日
③6月8日
④4月当初に予定通り実施し、休校まで授業をした。

⑤YouTubeを使った授業をアップしておられる先生もいらっしゃいますが、全体としてのオンライン

授業はありません
⑥Teamsや学年別HPを利用してオンライン化が進められたこと。部活動は不可。授業が滞ったことで課題が増え、期末テストの範囲が増加した。夏休みの短縮。

⑦体育では距離を取りつつ運動したり、教室は常に窓を開けるなどの予防対策がされていた。学園祭(体育祭・文化祭)の中止(それに変わる企画を生徒会が考えている)。

⑧修学旅行先の変更。滋賀県は1000人を少し越える程度だったが、京都や大阪に通勤通学している人が多いので、危機感には常にある。学校のある長浜市は2〜3人程度だと思えます(6月末現在)。

⑨滋賀県1006人
↓537人

兵庫県神戸市
神戸鈴蘭台高等学校



⑨兵庫県715人
↓3050人

い、授業をしないまま休校。体育館では行わず、グラウンドで行った。

⑤有り。3年の一部授業で行われた。Classで学習動画の配信があった。

⑥Classでの課題提出が奇数番号、火木が偶数の登校日。2週目はその逆。9時20分のSHRで健康チェックを行い、40分の短縮授業を行った。

⑦授業中も発表や発音練習が出来ない。体育もできる種目が限られている。

⑧3月1日に兵庫県内で初の感染者。▼3月3日に神戸市内で初の感染者。▼3月20日に感染者が100人を超える。▼6月28日現在の県内感染者数は705人



滋賀県彦根市
彦根東高等学校

藤村知行先生

①4月13日
②5月18日
③6月8日
④4月当初に予定通り実施し、休校まで授業をした。

⑤無し。オンライン授業ではなく、オンラインで質問会がありました。

⑥学園祭が中止になり、9月に代替開催が検討中です。

⑦3年生にとつての最後の大会や学園祭がなくなり、喪失感が深まりました。みんな比較的冷静に受け止めた感じですが、滋賀県全体では101人(彦根市は5人)の感染者が出ましたが、大きな混乱はありませんでした(6月末)。

⑨滋賀県106人
↓537人

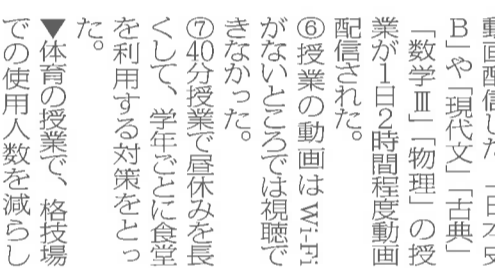
和歌山県和歌山市
向陽高等学校

なければならぬので、学習習慣のある者でない者が差がついた。

⑦アルコール消毒の教室設置▼行事中止▼生徒ホール(学食)がテイクアウトのみになった▼第1回審査が課題テストになった▼夏休みが9日間に短縮された。

⑧和歌山県では5月13日から41日連続で感染者は確認されていなかったが、6月23日に新規感染者が出た。地域的に大阪へ通勤通学をする人が多いので、大阪に近い地域や大阪に出かけた人からの感染が主である。(6月末現在)。

⑨和歌山県65人
↓261人



高知県高知市
高知小津高等学校

江洲幹太さん(3年)
宮脇颯都さん(3年)
宮脇颯都さん(3年)
柳瀬こあさん(2年)

①4月10日
②5月11日
③5月25日
④始業式・入学式だけ行い授業をしないまま休校

▼体温検査を毎朝と部活動前に用紙に記入してチェックする。

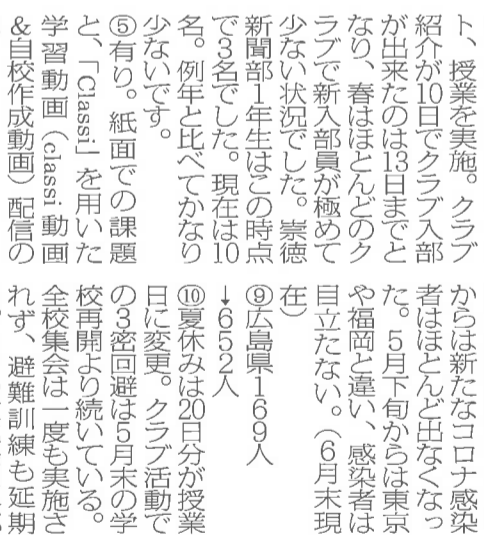
▼各教室前や玄関などに消毒液を設置。

▼密を避けるために更衣場所を変更し、女子は体育館の更衣室2か所使用、男子は格技場になった。

⑧学校のある地域の新型コロナウイルス感染状況について、5月31日に感染者が出た以降、高知県には感染者が出ていない。学校の者が出ていない。学校の業が1日2時間程度動画配信された。

⑨高知県74人
↓140人

広島県広島市
崇徳高等学校



高知県南国市
高知農業高等学校

名東 涼先生

①4月9日
②なし
③5月10日
④始業式・入学式(オリエンテーション)を含むだけ行い授業をしないまま休校

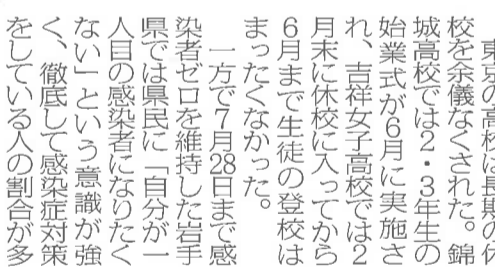
配信動画が多すぎたし、全然ログインできずに困った。

⑦授業スピードが速い。

▼部活の大会がなくなった。▼動画や教材と重複した授業もあり、飽きる。▼図書館や食堂にはビニールでのシールドが出来た。▼さまざまな行事が出来なくなった。

⑧広島は一時期数力所です。クラスターが発生した。県西部、東部、北部でのクラスター発生も。他地域では実感なし。6月頃からは新たなコロナ感染者はほとんど出なくなつた。5月下旬からは東京や福岡と違い、感染者は目立たない。(6月末現在)

⑨広島県169人
↓652人



アンケートのまとめ

新型コロナウイルスによる休校期間は、各都道府県の感染状況によって大きく異なっていた。東京の高校は長期の休校を余儀なくされた。錦城高校では2・3年生の始業式が6月に実施され、吉祥女子高校では2月末に休校に入ってから6月まで生徒の登校はまったくなかった。

一方7月28日まで感染者ゼロを維持した岩手県では県民に「自分が一人目の感染者になりたくない」という意識が強く、徹底して感染対策をしていく人の割合が多かった。

た。

⑩夏休みは20日分が授業日に変更。クラブ活動での3密回避は5月末の学校再開より続いている。全校集会は一度も実施されず、避難訓練も延期中。11月の文化祭は外部への公開を取りやめになり、11月の修学旅行は2月に延期となった。

⑨高知県74人
↓140人

福岡県福岡市
福岡大学附属大濠高等学校



特集を終えて

今回の企画は富山県の高岡第一高校新聞部の呼びかけで実現しました。企画に参加した新聞部はアンケートの回答を高岡第一高校新聞部に送り、高岡第一高校が全国から

集まったデータを、参加した各校の新聞部に送付。このアンケートをもとに各校で紙面を作成しました。

また、滋賀県の虎姫高校がこの企画の参加校に呼びかけてZoomを用いた交流会を行うことができました(II写真)。

全国コロナレポートのレイアウトは高岡第一高校の紙面を参考にさせていただきました。また、参加校の位置を記した日本地図は高岡第一高校新聞部顧問の長丸先生のアイデアがもとになっています。

れた(中学は3限後、高校は4限後に昼休み)▼マスク着用の義務化▼食堂にビニールシールドが設置された。

⑧学校のある地域の新型コロナウイルス感染状況について特定警戒都道府県に指定されたが、現在は感染者の増加はない。(6月末現在)

⑨福岡県854人
↓5160人

業となった。普通科の教員も手伝った。

⑦学校行事の中止や見直し。7月いっぱい授業。▼食堂の席の半減

▼教員はマスクをつけて授業。

⑧高知県は四国で一番最初に感染者が出ており、県中部、西部で感染者が出た。東部は感染者が出ず、地域によって休校や授業再開などが随分と違っていた。

(6月末現在)

戦争を語り継ぐ 被爆75年 新聞部・放送部共同企画 林京子作『空き缶』朗読会

共に平和の大切さを伝えたい

新聞部と放送部が共同で企画した『空き缶』朗読会が、7月16日に本校学而館で行われた。『空き缶』は長崎出身の作家・林京子さんが自らの被爆体験をもとに描いた作品である。

この朗読会は新聞部が『空き缶』を被爆75年関連の特集記事の参考にすべく、放送部に朗読を依頼したことがきっかけとなり実現した。当日は放送部の2年生6名が分担して朗読を行った。

朗読会では最初に、新聞部長西宮大翔が次のように挨拶を行った。

「朗読会という形で放送部全員の方に朗読していただくことになり、感謝の気持ちでいっぱいですが、戦争について一人ひとりがしっかり考える時間にしたかったので、今日はよろしくお願ひします」

その後、新聞部から『空き缶』の著者林京子さんが長崎高等女学校3年生の時に学徒動員先の三菱兵器大



放送部部長片山佳純さん

「林京子さんの『空き缶』という作品を通して、小学校の時から学んできた原爆について違う視点で改めて学ぶことができたと思います。私は特に8月9日の出来事が当時の人々にとってどれほど忘れられない出来事だったのかということが深く印象に残りました。放送部と新聞部は今回の共同企画ということで、同じ『伝える』部活として、長崎県民として、平和の大切さを伝えていけたらなと思います。そして今回私たちの朗読で平和の尊さ、原爆の悲惨さが届けられたらなと思います」。

『空き缶』朗読会 先生方の感想 読み継いで欲しい作品(中島先生) 被爆の事実を実感(松本先生)



放送部顧問の中島数美先生

『空き缶』朗読会の終了後、朗読を指導した放送部顧問で国語科の中島数美先生と、広島出身で、昨年まで沖繩に住んでいた国語科の松本直先生に感想を伺った。

中島数美先生
(国語科・放送部顧問)

今回の朗読会を通じて『空き缶』という作品が朗読で読み継がれ、聞き継がれるべき作品だと思った。

この作品は、目で見る景色、耳で聞ける音など、五感に訴えてきて長崎の匂いを感じ、強く感じる文章だった。特に解体前の母校の校舎の前に立ったときの



広島出身の松本直先生

臨場感を感じて、思わず彼女たちの同級生となったような気持ちになり、時の経過とともに空き缶の女の子を私自身が思いだしたかのようになり、リアルな感覚を持つてくれた。目で読むより耳で聞いたほうがよい文章だと思った。その点では放送部員たちが適切な間を置いてくれたので、少女が親を思う気持ちが切なく伝わってきた。

自分が持っている映像を、聞き手の頭の中に映像化させることはできないので、朗読をする時は当時のことを調べたりして、自分の中の登場人物の思いを

松本 直先生 (国語科)

この朗読会に出るまでこの作品を読んだことがなかった。『空き缶』というタイトルを見て何の話かと気になっていた。戦争当時の話かと思ったら、現代の話で、被爆直後のことを(被爆直後のことを)回想しながら話が進んでいくということが興味深かった。

大人になってなかなか戦争に関する話をしっかり聞く機会がなかった。戦争は重いテーマであり、なんとなく読むことを避けてきたが、朗読を聞いてみると、いろんなことを思い出したり、当時のつらい状況などを思い浮かべた。

また、話の中に長崎の具体的な地名がでてきて、原爆投下は現実であったことだということを改めて思った。

広島で育ち、沖繩にも住んだことがあるが、沖繩では住民が日本軍に虐げられたということが、米軍が迫る中で住民が命からがら逃

に、こうした作品を読み継いで行くことはとても大事なことだと思ふ。

長崎の若者は(原爆について)世界に向かって発信しないといけないという使命がある。放送部部長の片山さんが最後の挨拶で言ったように、放送部の「伝える」と新聞部の「伝える」が共鳴したと思う。こういう機会を持つことができて新聞部に声をかけてもらってよかった。

たように、放送部の「伝える」と新聞部の「伝える」が共鳴したと思う。こういう機会を持つことができて新聞部に声をかけてもらってよかった。

「怖い」「悲惨」「悲しい」ということに重みがあったように思うが、『空き缶』は当時の生活の有り様とか考え方が見える話だった。原爆をきっかけに人の人生に焦点が当たる話だったので興味深く朗読を聞いた。(伊藤)

『空き缶』の朗読を終えて 戦争を語り継いでいきたい

『空き缶』の朗読を行った放送部員に感想を聞いた。

片山佳純さん(2の5)

朗読したときに一番感じたのは、当時の人々が戦争に對してどれだけ強い思いを持っていてるかということだ。私は小学生のときから平和学習をしてきたけど、

当時を経験した人が書いた文を読むことで、これまで持っていた形での平和の尊さを学ぶことができた。先生に練習を聞いても



▲『空き缶』の舞台であるN高等女学校のモデルとなった長崎高等女学校の校舎。戦後は長崎東高校の校舎として使用された。『空き缶』は戦後30年ほど経過し、母校(N高等女学校)の校舎が老朽化して解体される直前に、主人公とその友人が校舎を訪れ、学生時代を回想する場面から始まる。(写真集『懸立長崎高等女学校新築記念』(昭和5年刊行)より転載)



『空き缶』を朗読する小川さん

朗読会では最初に、新聞部長西宮大翔が次のように挨拶を行った。

「朗読会という形で放送部全員の方に朗読していただくことになり、感謝の気持ちでいっぱいですが、戦争について一人ひとりがしっかり考える時間にした

らったとき、被爆者の父母が描かれているシーンがあって、そこには、原爆で子供を亡くした親の気持ちが鮮明に描かれていて、そこを大切に読むように言われて、感情を乗せて読んで。

登場人物たちが講堂に入って、原爆のことを思い返すところが印象的だった。長崎弁がたぐさん使われていて親近感が湧き、より感情移入しやすかった。

私が読むところに「悲しゅうなる」という台詞があった。それが原爆の被害を表している部分だと思っただけで、柔らかな台詞だけど、命の重さが伝えられた感じがして、よほどの経験があったらどうと関心を持った。

大久保愛美さん(2の6)

林京子さんの作品を読んだことはなかったが、林京子さんの名前は聞いたことがあった。これから解体されるであろう母校の校舎を見て思い出すだけでなく、そこに原爆の話を入れることで物語の重厚感があ

池田海舟君(2の4)

原爆を体験した方々の生活について身近に感じる活動ができた。当時の人たちが原爆についてどのように感じたのか伝わってきたのでよかった。タイトルの意味が最初はわからなかったが、後半を読むとその意味がわかって、衝撃的だった。原爆の悲惨さをそのエピソードで強く感じた。

在学中に行われた女学校の追悼式で原爆による死者

中島駿一郎君(2の4)

『空き缶』を読んで被爆者一人ひとりの被爆体験と向き合う気持ちや、放射線の身体への影響の大きさについて知ることができた。原爆が落ちたときに刺さったガラスが時間たつてから痛んできたというシーンから、核兵器が人を一生苦しめるということを考え

濱田楓菜さん(2の5)

被爆した方が書かれたものが書かれている印象があるけど、『空き缶』は高等女学校時代の生活とか気持ちとかも書かれているので、今まで読んでいた朗読よりも話とは異なる視点で戦争について知ることができた。

林京子さんは色々な作品で原爆を伝えているので、それを読むことで当時のことを知ることができ、ありがたいと思った。

色々な見方や色々な考えがあると思うが、普通に生活をしていて子供や女性を無差別に殺した原爆は、どんな理由でも許してはいけないと思う。他県の人たちは意外と原爆のことについて知らない人が多いので、深く知ってほしい。

小川碧さん(2の5)

自分のひいおばあちゃん(500m)のところで被爆したけれど、話を聞いたことはなかった。林京子さんも近くで被爆されていて、こんな感じだったのかなと思った。

8月9日に被爆体験講話を聞くけど、その話はお話をされる被爆者の方が主人公だけれど、この話は台詞で周りの人についても客観的に書かれているような気がして、自分の中に入ってきたやすかった。戦争の話でも読んでみたいと思った。他の作品も読んでみたい。(伊藤)

被爆関連の小説は被爆直後の凄惨な光景などが書かれることが多いが、『空き

の追悼式で原爆による死者

深く知ってほしい。

被爆時に刺さったガラスの破片が体内に残っているという話や、原爆症に対する不安を語るシーンを朗読

たのかなと思った。

他の作品も読んでみたい。(伊藤)

三菱兵器大橋工場に学徒動員

学徒動員（学徒）勤労働員とは

学徒勤労働員（学徒動員）とは、第2次大戦下の戦時経済運営上の労働力不足を補うためにすすめられた政府による学生・生徒の軍需工場への動員である。戦争拡大にともない軍需部門を中心に労働力の不足が深刻化したため、1943年6月「学徒戦時動員体制確立」を閣議決定し、学徒の軍需部門への動員を一段と強化した。1944年3月には「決戦非常措置要綱ニ基ク学徒動員実施要綱」で中等学校以上の学徒全員の工場配置を閣議決定した。さらに、1945年3月には本土決戦に向けた勤労働員体制の一環として「決戦教育措置要綱」において1年間の授業停止による学徒勤労働員体制の体制がとられた。終戦時の学徒動員数は340万人以上。林京子さんは長崎県立長崎高等女学校3年生の時に魚雷を製造している三菱兵器大橋工場に動員された。大橋工場の跡地は戦後、長崎大学の文教キャンパスになった。



林京子さんら長崎県立長崎高等女学校の3年生が動員された三菱兵器大橋工場の跡地魚雷などを製造する軍需工場だった。（現在は長崎大学の文教キャンパスとなっている）

『空き缶』朗読会 会場配付資料

長崎県立長崎高等女学校創立百年記念誌「たちばなの歩100年」巻末の年表より抜粋（一部加筆）

1944年（昭和19年）

《3月20日》3年生（41回生）三菱兵器製作所茂里町工場に動員。動員生徒は10日毎に登校。校内生活を送る。専攻科生 三菱電機長崎製作所に動員。

《10月20日》4年生（41回生）工場より帰校。卒業まで4学年の授業を受ける。3年生（42回生）三菱兵器製作所（茂里町・大橋工場・市立商業学校内の油木工場・日見トンネル内工場・城山小学校内給与課）に動員。

【学校の状況】①学徒報国隊として895名動員（本科3・4年生）。②本科1・2学年も教育の一環として勤労作業・食糧増産に励む。③開戦以降教諭の応召が続き、男子教諭激減。

1945年（昭和20年）

《3月27日》卒業式 空襲警報のため式は中断。2日がかりの式となる。

《4月1日》4年生（42回生＝「嘉代子桜」で知られる林嘉代子さんの学年）三菱兵器茂里町工場・大橋工場他に継続動員

《5月》長崎高女校舎3・4階、県庁執務室に転用（経済部200名）

《5月25日》3年生（43回生＝林京子さんの学年）学徒動員研修会に参加

《6月1日》3年生（43回生）三菱兵器製作所大橋工場（＝現在は長崎大学文教キャンパス）および住吉のトンネル工場に動員配属。組立て・製図作業等に従事

《6月》2年生（44回生）学校工場（長崎高女体育館）へ動員配属、コイル巻作業に従事

《8月9日》原子爆弾投下。被爆による動員中の本校の死傷者

◆立花、蒲地、角田三教諭殉職

◆生徒、死者 139名（後日の死亡は除く）、負傷者数172名、行方不明者数0名

《10月1日》動員生徒帰校、授業開始

《10月中頃》本校原爆犠牲者慰霊祭（校庭）

放送部・新聞部共同企画

『戦争を語り継ぐ』

校舎は、コの字形のコンクリート四階建である。私たち五人は、その校舎に囲まれた中庭の、ほぼ中央に立っていた。

『空き缶』は長崎出身の作家・林京子さんの作品で、3年生は現代文で学んだ作品でもあります。林さんの生家は東山町にあり、女学校時代は十人町に住んでいました。

7月16日（木） 16:40
学而館2階 講義室

『空き缶』

朗読会

昭和20年8月9日林京子さんを含む長崎県立長崎高等女学校の3年生は動員先の三菱兵器大橋工場で被爆しました。原爆の爆風が金比羅山に阻まれたために女学校の校舎自体は大きな損傷を受けることもなく、学制改革で誕生した新制高校に引き継がれました。やがてその校舎も老朽化し、解体されることになりました。この物語は、元女学校の校舎が解体される直前に訪れた卒業生たちが当時を回想するところから始まります。女学校の校舎は現在の長崎大学経済学部（片淵キャンパス）のすぐ近くにありました。

校舎の写真は写真集『懸立長崎高等女学校 新築記念』（昭和5年）より転載

『空き缶』朗読会 ポスター説明文

昭和20年（1945年）8月9日林京子（本名 宮崎京子）さんを含む長崎県立長崎高等女学校の3年生（43回生）は動員先の三菱兵器大橋工場（現在は長崎大学文教キャンパス）で被爆しました。一方、西山にあった女学校の校舎自体は、原爆の爆風が金比羅山に阻まれたために大きな損傷を受けることもなく、学制改革で誕生した新制高校（長崎東高校）に引き継がれました。

やがてその校舎も老朽化し、昭和56年（1981年）に解体されることになりました。この物語は、元女学校の校舎が解体される直前に校舎を訪れた卒業生たちが当時を回想するところから始まります。女学校の校舎は現在の長崎大学経済学部（片淵キャンパス）のすぐ近くにありました。

小説家 林京子さん

1930年（昭和5年）－2017年（平成29年）。長崎市生まれ。長崎県立長崎高等女学校3年の時に学徒動員先の三菱兵器大橋工場で被爆。爆心地から1.3キロメートルの地点であったが、奇跡的に生き延びた。この体験に基づいた小説である『祭りの場』で75年に芥川賞を受賞した。その後も『上海』、『三界の家』など、被爆体験を基にした作品を発表し続けた。女学校時代は新地の隣の十人町に住んでいた。本名は宮崎京子。高等女学校時代の学徒動員の体験記『やすらかに今は眠り給え』は谷崎潤一郎賞を受賞している。

戦前・戦中の学校制度

◆小6で入試

戦前・戦中の学校制度と今の学校制度は、大きく異なる。戦前の義務教育は小学校（国民学校）の6年間だけ。一部の恵まれた子たちは小学校（国民学校）6年生の終わりに入試を受け5年制の中等学校に進学する。

◆厳格な男女別学

中等学校には男子に普通教育をおこなう「中学校」（男子校）と男子に専門的な職業教育を行う「実業学校」（男子校）、女子に普通教育を行う「高等女学校」に別れる。こうした中等学校への進学率は3割程度。現在の大学進学率より低かった。高等女学校の進学率は特に低かった。高等女学校に通えたのは家庭が裕福で、かつ高学力の子たちだった。大学など高等教育機関に進学できたのは同年代の1割に満たない。旧制高校・旧制大学は男子しか入学できなかった。

第二次世界大戦末期、労働力不足を補うため多くの十代が強制的に軍事工場で働かされた。これを学徒動員という。林京子さんを含む県立長崎高等女学校3年生（現在の中学3年生）は三菱兵器大橋工場（現在の長崎大学教養キャンパス）などに動員された。長崎原爆資料館に女生徒の工場動員の様子を記した工場日記が所蔵されていることを知り、学芸員の弦本美菜子さんに話を聞いた。また、学徒動員に関係した場所を訪ねてみた。



▲林京子さんをはじめとする長崎高等女学校3年生が動員された三菱兵器大橋工場跡地。魚雷を製造していた。現在は長崎大学教養キャンパスとなっている。

学生生活を奪われた日々 長崎高女 学徒動員の工場日記

主にどのような内容が記されていますか。
内容は生徒の欠勤・遅刻・勤務中の事故の記録です。空襲警報の時刻も詳細に記されています。また、



弦本さんから工場日記の説明を受ける

先生方の所感も記されています。3年生の動員が始まった1945年5月25日から原爆投下前日の8月8日までが記入されています。この日記によって当時の学生さんの、どのような様子が浮かび上がってきますか。
次第に欠勤が増えてきます。疲労と栄養不足があったのではないのでしょうか。不注意による事故も増えてきます。休みは2週間に1回。交



工場日記を記入したノート



工場初日の記録

この日記について現在の高校生にぜひ知ってもらいたいことは何ですか。
戦争が起こり大人の男性が戦場に出征し労働力が不足したので、今の中3から高2に当たる女子生徒が兵隊に代わって工場日記を記していった。実際に工場日記を見せていただく。

5月25日が最初の記録。研修のために工場近くの別の施設（三菱兵器西郷寮）で5日間の研修。5月30日は工場初日。欠勤、遅刻、事故の記録に続いて記事として8時に国旗掲揚台前の広場に集合したこと、朝礼、職場配置通達、職場に就く、早退願いの提出。

8月8日は、毎月8日が太平洋戦争が始まった日なので、その集会の日が記されていた。「工場日記」はここで終わっている。（森）

翠場に動員されたというこどももあり、その子たちが疲弊するまで労働力としてあてにされているようなことが起こったということを知っていただきたい。工場日記は公開されています。（森）

んが、林京子さんの「やすらかに今はねむり給え」という学徒動員の体験記で、工場日記が随所に引用されています。（森）

戦争を語り継ぐ 新聞部「やすらかに今はねむり給え」を巡る

8月19日、本校新聞部は、林京子さんの学徒動員の体験記『やすらかに今はねむり給え』に関する場所を巡るために「ピースさるく」を行った

三菱兵器西郷寮跡地へ

取材班は最初に白鳥公園へ向かった。白鳥公園は、昭和20年4月に鹿児島から長崎の三菱兵器に動員された第七高等学校造土館理科（鹿児島大学理学部の前身）甲類4・5・6組が生活していた西郷寮の跡地である。七高生はここに寝泊まりしながら工場へ働き、わずかな空き時間には引率教授から授業を受けていた。

一方、三菱兵器大橋工場に動員されたことになった林京子さんをほめて、長崎県立長崎高等女学校（県立高女）3年生は西郷寮で5日間の事前研修を受けた。林京子さんは当時終点だった大橋電

停で電車を降り、徒歩で西郷寮に通ったと思われるが、私たちは熱中症を予防するためミニバス「ニッキー」に乗り継いで白鳥公園に向かった。

白鳥公園には原爆投下により死亡した15名の七高生を偲ぶため、同級生らによって昭和50年8月9日に「長崎原爆七高戦災追悼碑」が建立されている。七高生との交流 学徒動員された県立高女の生徒と七高生の交流が林京子さんの「やすらかに今はねむり給え」に生き生きと描かれている。

七高生の一部は、大橋工場に動員されていた。十九歳から二十歳の知的なエリートたちだった。さすがに敗戦の混乱のさなかにも、生き方は自覚的である「焚書坑儒ともいうべき時代に、彼らは西郷寮の下に身を寄せて、教授たちの講義を聴いている。生き方を模索している。待っているのは、日ならずして

夜二交替、十二時間休みがない労働をえた後、なお数学の専門書を離さない友人に「学問に没頭出来る君が羨しい、僕は淋しくて仕方がない」と一人の生徒が話しかける。するとその友人は、「僕も淋しくて仕方がないんだよ」と答える。

この奥の方に林京子さんが配属された工場があった（長大文芸教養キャンパス）

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

三菱兵器大橋工場へ 私たちはこの後、徒歩で

戦争を語り継ぐ

「地図を持って出かけよう」

布袋厚さん(南高卒)『復元!被爆直前の長崎』を出版

被爆75年という節目の年に、長崎南高校の卒業生で、自然研究者で、医師の布袋厚さんが原爆投下直前の1945年8月8日の長崎の街並みの地図を復元した『復元!被爆直前の長崎』を長崎文献社から出版し話題を呼んでいる。そこで著者の布袋厚さんと編集者の堀憲昭さんに話を伺った。



復元!被爆直前の長崎
原爆投下直前の1945年8月8日の地図



編集者の堀憲昭さんと著者の布袋厚さん

きっかけは米軍航空写真

アメリカの国立公文書館で発見された原爆投下直前の長崎と広島を撮影した航空写真を日本地図センターが2005年に出版したことが、この本の作成につながった。

布袋厚さんは原爆投下直前の長崎の航空写真を見て、



▲爆心地公園付近の復元地図
『復元!被爆直前の長崎』(長崎文献社)より転載

を憶えている方々がたくさん居なくなってしまう。今やらなければ永遠にチャンスを逃すと思った」ということ、グラフィックソフトが進歩し技術面で自注も立ったので「見切り発車」で作成に着手したとのこと。

「事実」を知ってほしい
布袋厚さんは「復元地図の作成を通じて、自分自身が



▲爆心地公園。ここにはかつて商店があり、買い物客で賑わっていた。

知らないことがたくさんあったことに気づいた。私以外の長崎市民も、他の地域から長崎市に移り住んだひとたちも知らないことがたくさんあるはず。復元地図を通じて、いろいろな「事実」を知ってほしい。事実を知ることで、「どうすべきか」という考えがいろいろと浮かんでくると思う」と語る。

「一瞬にして7万人の命が失われた」とよく言われるが、その年の年末までに7万人が亡くなった。最初は無傷だと思われた人々は、何週間経って次々と亡くなった。

「7万人の中には入っていないが、5年ほどたつて白血病で亡くなる人もいる。ある意味、一瞬で命を奪われることよりも、苦しみを繰り返して、あるいは何年もかかって死んでいく人が急いで体調を崩して亡くなる。そのうちの方が当事者にとっては残酷かもしれない。」

「死の同心円」という本を、浦上で救済活動をおこなっていた浦上第一病院(現在の聖フランシスコ病院)の医師・秋月辰一郎さんが著した被爆医療の記録。爆心地に近いところから(つまり、放射線量の多いところから)原爆症で人が亡くなっていき、しだいに同心円が広がるように原爆症で亡くなる人が遠い所まで広がっていく。当時の人々の心情を考えると、とても恐ろしかったのではないかと。

謎が多い戦前・戦中の長崎原爆の被害者については今まで多くの本に書かれているが、『復元!被爆直前の長崎』では記載は少なすぎたという。書いていることはつぎの三つだけである。①街が一瞬にして灰になったわけではないこと②旧市街地の火事③爆風が浦上まで届いたこと

「例えば、原爆が落ちてきたあとの長崎の街に、ものすごい数のハエが飛び回っていた。どこへいってもハエだらけだった。焦げ臭い匂いや死体が腐った臭いが至る所に立ちこめ、ものすごい状況だった。」

編集者の堀さんは「原爆によって街は一瞬にして灰になった」と言われることがあるが、実は「一瞬」ではない。この本では火事

長崎防空本部(立山防空壕)は長崎歴史文化博物館の北側に隣接したところにある。『復元!被爆直前の長崎』を見るに戦前・戦中、現在の歴史文化博物館が位置するあたりには警察防空学校など警察関係の施設が集中していた。

「二瞬にして7万人の命が失われた」とよく言われるが、その年の年末までに7万人が亡くなった。最初は無傷だと思われた人々は、何週間経って次々と亡くなった。

「7万人の中には入っていないが、5年ほどたつて白血病で亡くなる人もいる。ある意味、一瞬で命を奪われることよりも、苦しみを繰り返して、あるいは何年もかかって死んでいく人が急いで体調を崩して亡くなる。そのうちの方が当事者にとっては残酷かもしれない。」

長崎防空本部(立山防空壕)は長崎歴史文化博物館の北側に隣接したところにある。『復元!被爆直前の長崎』を見るに戦前・戦中、現在の歴史文化博物館が位置するあたりには警察防空学校など警察関係の施設が集中していた。

三敵B29二機は熊本縣大牟田方面より北緯シ島原半島西部橋上空ヲ経テ長崎市上空ニ侵入一〇二頃落下傘

この後、旧長崎立長崎高等女学校(県立高女)跡地を訪れた。建物自体は現存しておらず、かつての敷地の一部が「たかはな公園」となっており、石碑が建てられている。県立高女は長崎市出身の作家林京子さんの母校であり、その校舎は小説『空き缶』に「N高女」として登場する。本校の3年生(58回生)は1年生の時に現代文の授業で『空き缶』を学んだ。

戦後の学制改革で県立高女の校舎は長崎東高校がしばらく使用した後1981年に解体された。『空き缶』は、N高女の卒業生数人が解体直前の校舎を訪れ学生時代を回想するというシーン

に包まれていたからだ。長崎市は明治・大正までは観光地で、絵はがきや地図などもたくさん出ていて当時の様子がわかるが、第二次世界大戦前後がミッシングリンクになっている」と布袋厚さんは語る。

「みなさんでもできればこの地図をもって現地に出かけてほしい。そのために現在の地図を重ねている。地図を見て今の関連を知るだけでなく実際にその場に行って当時のことをイメージしてほしい。」

戦争を語り継ぐ

新聞部「ピースさるく(立山・片淵編)長崎防空本部跡や『空き缶』の舞台巡る

新聞部は8月29日に「ピースさるく」を行い、長崎防空本部跡や『空き缶』の舞台となった長崎南高等学校の跡地、長大経済学部の被爆遺構などを巡った。



▲長崎防空本部の知事室。ここで原爆投下の報告の第一報が出された。長崎防空本部跡は長崎歴史文化博物館の隣に位置する。

路面電車旧線跡を辿る
まず市民会館に集合し、路面電車の旧線跡を辿って移動した。勝山町と桶屋町が接するところに旧「勝山市場」がある。『復元!被爆直前の長崎』によると、これは、路面電車の旧軌道跡で、かつては桜町の味を越える急な坂であった。戦後、電車の軌道が切り通しの方に移ったあと市場も建ったが、その市場も

2019年に最後の店がなくなった。教会跡の遺跡に驚く
次に桜町小学校内にあるサント・ドミンゴ教会跡を訪れた。この教会は江戸時代初期に建てられたもので、桜町小学校の建設工事中に遺跡が見つかり、小学校の一部を遺跡・資料館として保存した。桜町小学校は新興善小学校と勝山小学校の統廃合地に建てら



▲県立高女の跡地に立つ石碑



▲長大経済学部瓊林会館は被爆遺構

原子爆弾投下直後に長崎県知事が防空本部長官などへ送った電文は次のとおりである。



▲長崎防空本部の通路

長崎防空本部跡は、実際

長崎防空本部跡は、実際

長崎防空本部跡は、実際

長崎防空本部跡は、実際

長崎防空本部(立山防空壕)は長崎歴史文化博物館の北側に隣接したところにある。『復元!被爆直前の長崎』を見るに戦前・戦中、現在の歴史文化博物館が位置するあたりには警察防空学校など警察関係の施設が集中していた。

三敵B29二機は熊本縣大牟田方面より北緯シ島原半島西部橋上空ヲ経テ長崎市上空ニ侵入一〇二頃落下傘

この後、旧長崎立長崎高等女学校(県立高女)跡地を訪れた。建物自体は現存しておらず、かつての敷地の一部が「たかはな公園」となっており、石碑が建てられている。県立高女は長崎市出身の作家林京子さんの母校であり、その校舎は小説『空き缶』に「N高女」として登場する。本校の3年生(58回生)は1年生の時に現代文の授業で『空き缶』を学んだ。

戦後の学制改革で県立高女の校舎は長崎東高校がしばらく使用した後1981年に解体された。『空き缶』は、N高女の卒業生数人が解体直前の校舎を訪れ学生時代を回想するというシーン

に包まれていたからだ。長崎市は明治・大正までは観光地で、絵はがきや地図などもたくさん出ていて当時の様子がわかるが、第二次世界大戦前後がミッシングリンクになっている」と布袋厚さんは語る。

「みなさんでもできればこの地図をもって現地に出かけてほしい。そのために現在の地図を重ねている。地図を見て今の関連を知るだけでなく実際にその場に行って当時のことをイメージしてほしい。」

取材を終えて

私たちが今回の特集で、長崎高等女学校の生徒さんの生徒動員について調べていたが工場の位置関係などわからないことが多く困っていました。『復元!被爆直前の長崎』が出版されたためにこの本を手元に長大文教キャンパスや白鳥公園などを巡り当時の状況について理解を深めることができました。著者の布袋厚さんが本校の卒業生だったことも何か縁を感じました。(香川)

龍馬さるく新聞

こうち総文 WEB公開用新聞

こうち総文参加者

- 西宮 大翔
- 伊藤萌々香
- 森 美優
- 香川 薫穂

龍馬像から亀山社中へ

長崎と縁が深い高知出身者といえば坂本龍馬と岩崎弥太郎が有名である。今年度の全国高等学校総合文化祭高知大会(こうち総文)は新型コロナウイルスの影響でWEB開催となった。そこで今回は、長崎で「こうち総文」の取材活動ができないかと考えて、「龍馬と長崎コース」という取材コースを設定して長崎南高校の近くにある龍馬ゆかりのスポットを求めてさるく取材してみた(長崎弁でいろいろなものを見て回って歩くことを「さるく」)。取材は、長崎南高校を出発し、坂道を上がった下り坂道を通り、約30分かけて歩き、風頭公園に着いた。その入り口にある小川ハタ店を訪れ、取材を行った。その後、公園内にある龍馬像を訪れた。

長崎は坂の町である。私

たちは、長崎南高校を出発

し、坂道を上がった下り

坂道を通り、約30分

かけて歩き、風頭公園に

着いた。その入り口にあ

る小川ハタ店を訪れ、取

材を行った。その後、公

園内にある龍馬像を訪

れた。

取材は、長崎南高校を出

発し、坂道を上がった下

り坂道を通り、約30分

かけて歩き、風頭公園に

着いた。その入り口にあ

る小川ハタ店を訪れ、取

材を行った。その後、公

園内にある龍馬像を訪

れた。

取材は、長崎南高校を出

発し、坂道を上がった下

り坂道を通り、約30分

かけて歩き、風頭公園に

着いた。その入り口にあ

る小川ハタ店を訪れ、取

材を行った。その後、公

園内にある龍馬像を訪

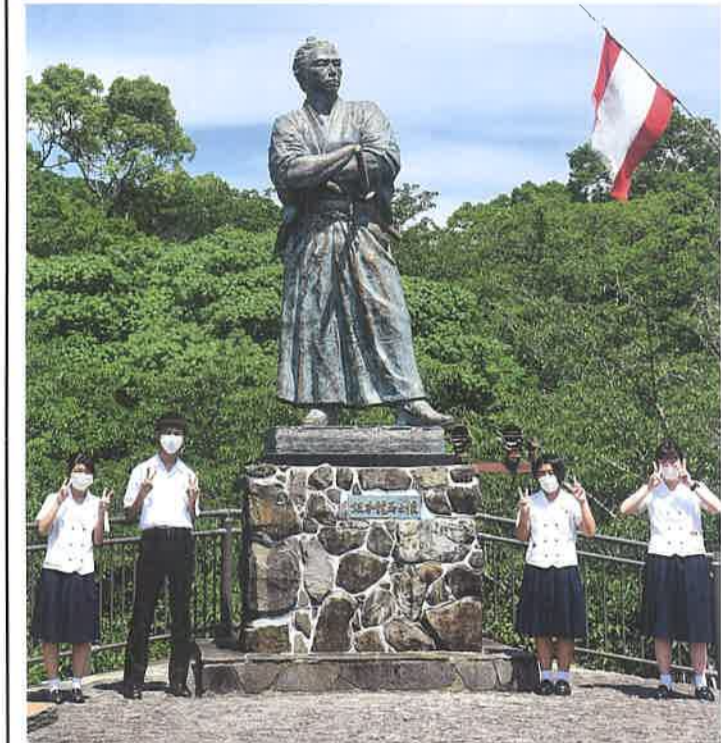
れた。

取材は、長崎南高校を出

発し、坂道を上がった下

り坂道を通り、約30分

かけて歩き、風頭公園に



風頭公園の龍馬像。ここから長崎港が一望できる。長崎港には高知出身の岩崎弥太郎が創始した三菱重工の長崎造船所がある。

日本最初の商業写真家

上野彦馬

龍馬像の近くに上野彦馬

の墓がある。上野彦馬は、

日本初の商業写真家であ

り、報道カメラマンとして

の草分け的存在。坂本龍馬

の写真を撮影したことも

知られている。

亀山社中へ

私たちは、上野彦馬のお

墓に手を合わせた後、狭い

路地を下り、亀山社中記念

館を訪れた。亀山社中記念

館は、坂本龍馬の亀山社中

の遺構として今に伝わる建

物を、2009年8月1日

から長崎市が整備・公開し

ているもの。亀山社中記念

館では、新型コロナウイルス

対策として、入館者を20

人に制限していた。

記念館の受付担当の方に

「緊急事態宣言が解除されても、

入館状況が改善されるまで、

来館者は通常の半分以下で

ているポスターを今回の

取材は、長崎南高校を出

発し、坂道を上がった下

り坂道を通り、約30分

かけて歩き、風頭公園に

着いた。その入り口にあ



亀山社中記念館(龍馬の写真は上野彦馬の写真に着色したもの)

龍馬と長崎

坂本龍馬は1835年、土佐高知域下に生まれる。江戸で剣術や砲術等を修行した後、土佐勤王党に加わり政治活動を始め、1862年に土佐を脱退し、幕臣・勝海舟に師事して航海術を学ぶ。1865年には長崎で日本初の商社とされる

「亀山社中」(後の海援隊)を結成。最初に拠点をつくらせた地「亀山」と、仲間・結社を意味する「社中」を合わせて亀山社中と呼ばれた。航海技術を生かして物資の運搬や貿易の仲介を行った。1867年4月、財政難により運営が苦しかった亀山社中は土佐藩と連

携し、土佐藩を海援(ウミヨリタスケ)する「海援隊」となる。脱藩者メンバーとして、運輸・開拓・投機を主目的に活動する商社である。龍馬は「薩長連合」や「大政奉還」といった大きな足跡を幕末の歴史に残したが、1867年11月、維新を前にして京都河原町の近江屋2階で暗殺され、生涯を閉じた。(森)

「さるく」で何度か見かけます。コロナの感染拡大前は東京や大阪から訪れる人が多かったが、今は来館者の大部分は近隣の県の観光客です」という答えが返ってきた。これは長崎市の印刷会社インテックスが感染症対策啓発のために1500枚製作し、長崎市に寄贈したものである。同社は行動履歴や健康状況を記録する「コロナNO!て(ノート)」馬はヒーローである。最近「注意せんばいかんぜよ!」はマスクを着けた龍馬像が作り、長崎市に200冊寄贈するとともに一冊200円で販売している。(西宮・伊藤)

小川風店を訪ねて

ハタのルーツはインドネシア

風頭公園の入口近くに位置する小川風店は長崎唯一の風店である。創業

は明治40年。手作り一筋である。「ハタ」というのは船や紙幣のことを指し、長崎独特の呼び名だ。長崎風の由来は、1600年頃まで遡る。店主の小川暁博さんは「ハタはオランダ船に乗っていたインドネシア系の人によってもたらされたと言われている。現地の言葉である『パタ』(PATAN)を長崎の人が『ハタ』と聞き間違えたことで広まったのではないかと話した。また、ハタの紋様は船同士が連絡を取り合うために使用した信号標識旗をデザイン化したと思われるシンプルなものが多い。異国との唯一の窓口であった長崎市の特色を表している。

今回のコロナの影響について小川さんに聞くと「東京で予定されていたハタ揚げ大会や、長崎内のイベントはすべて中止になった。緊急事態宣言解除後も客はあまり来ない」と語った。(香川)



小川風店の店主小川暁博さん



龍馬のイラスト入りのハタ

今回のコロナの影響について小川さんに聞くと「東京で予定されていたハタ揚げ大会や、長崎内のイベントはすべて中止になった。緊急事態宣言解除後も客はあまり来ない」と語った。(香川)

注意せんばいかんぜよ!

感染症対策

手の洗い方は?

3密を避けましょう!

長崎の地元企業インテックスが制作したコロナ対策啓発ポスター

編集後記

今回の145号の取材やアンケートに協力してくださった皆様、ありがとうございました。145号は、新型コロナウイルスの感染拡大の中で、活動が制限される状況もありましたが、これを逆手にして「龍馬さるく」や「ピースさるく」を行ったり、土産物店の現地調査を行うなど屋外の取材を増やしました。また、全国総文では高知に行けませんが、全国各地の高校と繋がってコロナに関する特集を組むことができました。(1年)藤原・立川・野口・遠藤(2年)伊藤・香川・森・西宮(3年)大江・亀井